

令和元年度
事業報告書

公益財団法人防府市文化振興財団

令和元年度 公益財団法人防府市文化振興財団事業報告書

I 事業総括

防府市文化振興財団は、真に豊かさの実感できる地域社会の形成と進展に寄与することを目的として、「豊かな心の育みと文化の薫りにあふれるまちづくり」を推進する防府市における文化活動の一層の活性化を図り、市民のニーズに応える多様な事業を展開しています。

令和元年度は、第3期指定管理完結の前年にあたることから、これまでの事業を検証しながら次期指定管理につながる事業活動を展開してまいりました。

これからも、防府市公会堂、防府市地域交流センター、防府市青少年科学館、防府市視聴覚ライブラリー、防府市立防府図書館、及び山頭火ふるさと館計6施設の指定管理者として、各施設において様々な事業を企画運営し、市民文化と教育の振興に努めてまいります。

ところで、年度末になり新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業の休止、休館を余儀なくされており、次年度の事業に影響を及ぼすことが懸念されます。

II 事業概要

公益財団法人として定款の目的にかなった事業を展開するとともに、「防府まちづくりプラン2020」に沿った文化・芸術活動の推進、並びに図書館運営事業による生涯学習を推進するため、所管する6施設のあり方を検討し、それぞれの特徴を活かしながら連携して適正な管理運営に取り組みました。

また、収益事業についても、公益目的事業の一層の充実を図るための財源確保や、利用者のサービス向上につながるよう、収入の確保に努めました。

1 文化の創造・発信及び文化活動の支援事業

防府市公会堂・防府市地域交流センター（アスピラート）

(1) 音楽鑑賞事業（資料1頁参照）

本年度は、自主事業3事業4公演、受託事業3事業7公演、合計6事業11公演のクラシックからポップス、伝統芸能、それ以外のジャンルと多岐にわたる事業を展開し、合計で約6千人の方にご参加いただきました。

防府市公会堂が改修工事により休館したため、大型公演は開催できませんでした。が、アスピラートの機能性を活かした事業を展開してまいりました。

ア クラシック

[主催事業]

a 広田智之&大萩康司デュオリサイタル

防府市出身のオーボエ奏者の広田智之とクラシックギター奏者の大萩康司によるデュオリサイタルを開催しました。ギターソロや楽しいトークを挟みながら、ケルト音楽やシューマンの曲など多彩なプログラムを送り、吹奏楽関係者や多くの学生からとても好評でした。

b 防府音楽祭

19回目を迎えた防府音楽祭は、町の活性化を図るとともに、クラシック音楽をより多くの市民に親しんでいただけるよう1月10日（金）から13日（月・祝）までの4日間開催しました。

初日の「街角コンサート」では、サンライフ防府、防府市議会棟議場、富海清水家主屋、暁の星幼稚園教会、桑陽病院、天神ピア、アスピラート1F市民スペースの市内7カ所でコンサートを行い合計1,000人以上の来場者がありました。防府市内のあちこちを巡りながら多くの方に楽しんでいただきました。

2日目に開催した「プロムナードコンサート」は、247通（524人）の応募がありファンファーレ、オーボエとハープ、ピアノの共演という美しいアンサンブルを楽しんでいただきました。最後は、メインゲスト和太鼓奏者の林英哲がティンパニとの迫力の打楽器アンサンブルで観客を圧倒しました。

防府市内外から集まった小学生から高校生までが受講した「管・打楽器特別公開クリニック」では、フルート、オーボエ、打楽器など11パートのクリニックを行い基礎を中心にプロから直接指導を受けました。また、各自が抱えている演奏上の悩みや相談なども講師が丁寧に答え今後の演奏に活かしていけるように指導をしました。

3日目の「わくわく夢の響演コンサート」は、第1部は歌とハープによる共演。そして防府少年少女合唱団も加わり美しい音楽の調べを届けました。第2部は、金管五重奏によるディズニー音楽や愉快的なトークと演出で観客を楽しませました。第3部は、林英哲による和太鼓協奏曲「飛天遊」と、合唱も加わった幻想曲「通りゃんせ」で和太鼓の魂の音に会場中が魅せられました。

最終日の「ファイナルコンサート」では、宗教曲「マニフィカト」をソリストと合唱、オーケストラの華やかな音楽を披露し、ヴァイオリン協奏曲では、景山誠治の奏でる音楽のすばらしさに聴き入りました。後半の組曲「展覧会の絵」では、テレビなどで耳馴染みの旋律に喜ぶ人が多く、オーケストラによる迫力の演

奏で最終日を締めくくりました。

市民参加型として定着している防府音楽祭は、(独)日本芸術文化振興基金からの高い評価を受け、引き続き今回も助成をいただいております。

イ 伝統文化

[主催事業]

a ひろしま安芸高田神楽公演

1 F 市民スペースでは、地元の神楽保存会による神楽「恵比須」を無料で楽しんでいただき、その後 3 F 音楽ホールで安芸高田の桑田天使神楽団による迫力の神楽 3 演目を披露し、神楽を初めて見る人も大いに神楽の魅力に触れ喜んでいただきました。

ウ ポップス等

[共催事業]

a ブリヂストン吹奏楽団久留米コンサート

防府市公会堂の休館に伴い、初めてアスピラートで開催しました。客席数が少ないことから 2 回公演とし、また、舞台が狭いためクラシックステージ、ポップスオンステージの 2 部構成となりました。ホールの特性に合わせた洗練されたコンサートでした。

b KAORI PARADISE 2019

プリンセスプリンセス時代の懐かしいナンバーから最新のソロアルバムまで、その曲のエピソードを交えながら、ピアノとアコースティックギターでの公演でした。パワフルさと大人の女性の魅力を備え聴く人を魅了していました。

c 響け！防府ハーモニー 全国大会出場記念コンサート

防府市と共同で開催し今年で 7 回目となりました。全国大会に出場した市内の小学校 2 校、中学校 2 校がその実力を披露しました。

d ぐっさんのハッピーオンステージ全国 50 カ所ツアー

3 月 7 日（土）に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期となりました。

(2) 音楽育成事業（資料 2 頁参照）

年間を通して開催することにより、幅広い層の市民に歌うこと、楽器を演奏することの醍醐味を堪能していただきました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3 月の教室は休講しました。

a こども合唱教室

定期演奏会に向け、ディズニーソング、合唱ミュージカルと様々な作品に取り組みました。後半は、防府音楽祭でプロ奏者と共演しました。

b 弦楽合奏教室

ブティは、音階や和音練習から始まり、フェスタ・アスピラート（音楽部門）での発表に向けて2曲取り組みました。また、一般コースでは、市民音楽祭や山口県芸術演奏会に出演し、来年の定期演奏会の曲にも取り組みました。

c 吹奏楽教室

8月の吹奏楽コンクールに向けて取り組み、中国大会まで進出し6年ぶりの金賞に輝きました。また、イオンタウンで開催されるコンサートや佐波川の灯籠流しで演奏するなど、地域に密着した活動も精力的に行いました。定期演奏会やアンサンブルコンテストなどにも取り組みました。

d 合唱教室

ラター作曲の「マニフィカト」やモーツァルト作曲の「アヴェ・ヴェルム・コルプス」などの宗教曲への取り組みや基礎練習などを行いました。山口県芸術演奏会や防府音楽祭に出演しました。

e チェンバロ講座 触ってみよう！

参加者一人ずつがしっかりチェンバロを弾くことができ、楽器と触れ合えました。最終日の音楽ホールでの発表会では、各自が思う存分演奏をしチェンバロの響きを楽しみました。

(3) 音楽普及事業（資料3頁参照）

各種音楽セミナーを開催し、音楽に対する興味・関心を広げてもらうように普及事業を展開しました。

[主催事業]

a 音楽セミナー／田中雅弘の音楽旅日記XVII

防府市出身のチェリスト田中雅弘を講師に迎えての音楽セミナーも、17回目を迎えました。今回は「fは本当にf！？～作曲家によって違う演奏法」と題してお話しや演奏を披露していただきました。

b 音楽セミナー／クラシックギターを語る

クラシックギター特有のトレモロやアルペッジョ奏法などを取り上げ、その技法が用いられている名曲とともにギターの魅力を解説していただきました。後半は、二重奏を取り入れ、アンサンブルの魅力に触れてもらい好評を博しました。

[共催事業]

a 室内楽セミナー

今回は、防府市内からの参加者が多く、その他に北海道や東京、山口県内各地から受講生が集まりました。最終日には、天神ピアで各グループが3日間の成果を発表しました。

(4) 美術鑑賞事業（資料3頁参照）

本年度は、企画展を4回、美術鑑賞バスを2回開催し、合計で約6万2千人もの方にご参加いただきました。

[主催事業]

a 美術鑑賞バス①

福岡アジア美術館、福岡市美術館へ赴き防府市では鑑賞する機会のない美術品に触れるよい場となりました。

b 魔法の美術館

日本を代表するメディアアーティストによる体験型アートの展示会を山口県初開催し、好評を博しました。入場者数は目標を大きく上回る3万8千人もの来場がありました。小さな子どもから大人まで最先端芸術を体感する場となりました。

c 吉村大星、やり残したことに気がついた

徳地在住のアーティスト吉村大星の作品と、同世代の作家の作品、防府市出身の父・故吉村芳生の作品など合計50点ほどを展示しました。本展で初めて取り組んだインスタレーションや写真など意欲的な作品が話題を呼び、わずか17日間の会期で15,214人の来場者が詰めかけました。

d 美術鑑賞バス②

行き先が、個人ではなかなか行くことのできない島根県立美術館ということもあり、早々に満員となりました。また、企画展の内容も好評でした。

e アスピラートでクリスマス！2019

クリスマスを盛り上げるイベントの一環として、観光コンベンション協会・商工会議所・中心市街地の近隣商業施設と連携して開催しました。読売マラソン前夜の防府を盛り上げる企画として実施した「灯りの下でコンサート」は、音楽祭のプレイベントとしても定着してきており、会場は満席となる賑わいでした。また、「冬灯り展」を発展した形の新しい取組として光や映像を使った体験型アート「バブルミネーション！」も行い好評を博しました。

[共催事業]

a ふるさとの匠たち 第12回「腕前探訪」

y a b山口朝日放送と朝日新聞との共同企画で、今回12回目の開催となりました。作家や生産者と直接ふれあうことのできる機会とあって、わずか4日間の会期で7千人を超える来場者で賑わいました。

(5) 美術育成事業（資料4頁～5頁参照）

美術展に併せた各種ワークショップや講座に加え、市民から要望の多い幼児から楽しめる造形ワークショップ等、より多くの子どもたちを対象とした美術育成事業

を開催しました。

[主催事業]

a ゆめあーとひろば

現役の小学校の図工担当教諭等が企画、指導を行う造形ワークショップを昨年に引き続き開催しました。6講座開催し、例年同様たいへんな賑わいでした。この事業は、(独)国立青少年教育振興機構の助成を受けて開催しております。

[共催事業]

a 瀬戸内デザイングランプリ 2019 入賞作品展

今年は「たまご」をテーマにした作品を募集し応募総数は1,503作品で過去最高にのびりました。

(6) 発表・支援事業 (資料6頁参照)

[主催事業]

a フェスタアスピラート 2020 (音楽事業)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため直前に開催中止となりました。

b フェスタアスピラート 2020 (美術部門)

「平成の思い出／令和の始まり」をテーマにした写真作品の募集をしたところ、116点の応募がありました。会期中の来場者投票と写真家等による審査により各賞を決定しました。選ばれた作品による優秀作品展も好評でした。なお、表彰式は新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ中止しました。

[共催事業]

a 防府少年少女合唱団第20回定期演奏会

20回目を迎えた今回は、OB・OGも賛助出演し、約70名の大合唱を披露しました。第3部の合唱ミュージカル「けんちゃんとおばけ」では、ダンスに歌、衣装など壮大な舞台を創り上げました。幼児から小学2年生までの約40人の賛助出演者も一緒に踊りや歌で会場を盛り上げました。

b 能章まつり

防府市出身の作曲家大村能章を顕彰し毎年開催される歌謡祭は、28回目を迎えました。5部構成で、各年齢層が楽しめるよう幅広い選曲がなされており、懐かしさを伴う歌謡祭でした。

c 防府吹奏楽団第18回定期演奏会

防府市公会堂が改修工事のため、アスピラートで開催しました。吹奏楽コンクールで演奏した曲をはじめ、オリンピックや令和をテーマにした曲まで多彩なプログラムと演出、サウンドで会場を盛り上げました。

(7) その他の文化鑑賞事業（資料6頁参照）

[主催事業]

a 会員招待事業

防府市公会堂が改修工事のため、アスピラートで2日に分けて開催しました。

1日目は、気象予報士・防災士の平井信行に「地域でできる防災対策～異常気象に備えて～」と題し講演していただきました。平成21年に防府市で発生した豪雨災害について、当時の気象状況を分かり易く説明され、災害に対する意識改革に繋がる講演でした。

2日目は、「パッケンマッケンの笑撃的国際交流」と題し、お笑いコンビのパッケンマッケンによる講演会を開催しました。来場者同士が自己紹介をするという、話を聞くだけでなく参加する楽しい講演でした。

(8) 文化施設の管理運営

施設の設置目的に沿ってそれぞれの特徴を活かしながら、市民が利用しやすい施設となるよう、各施設が連携をとりながら利用促進を図りました。

① 防府市公会堂

ア 施設整備

昭和35年の開館から60年近くが経過し、また舞台音響・照明設備の大規模改修工事から16年程が経過したため、経年劣化による修繕箇所が多数発生してきました。

この度、平成31年1月から令和2年3月まで、防府市による大規模改修工事が行われ、主として耐震化並びに老朽化した大ホール客席椅子の更新が行われました。

その間は全館休館とし利用者の方には大変ご迷惑をおかけすることとなりましたが、工事は予定通り終了いたしました。

イ 利用状況

全面休館により、利用なし。

② 防府市地域交流センター

誰もが利用しやすい施設となるように、以下のとおり管理運営を行いました。

ア 施設整備

本年度は開設から10年以上経過していたWEBサイトを大幅にリニューアルしました。見易さ、わかりやすさを最優先に考え、スマートフォンでの閲覧にも対応した仕様に変更しました。

8月に、種田山頭火の部屋と山頭火ふるさと館との重複を改善するため、山頭火ふるさと会を中心に展示品等の整理・撤収がなされ空きスペースとなりました。今後の

活用方法については、検討中です。

また、平成28年6月の建築基準法の改正を受けて新たに追加された防火設備の定期検査を本年度から実施し、安全な施設運営に取り組みました。

毎年恒例となっている施設の裏側を公開するバックステージツアーは9月に開催しました。本年度から報道資料を作成し、周知に努めたところ22名の参加があり、昨年度より大幅に増加しました。子供から大人まで幅広い年齢層の方々が参加され、アスピラートのことを知っていただくよい機会になったと考えます。

施設の維持管理の面では、開館から21年が経過したこともあり、舞台音響設備や空調設備等、経年劣化に伴う機器の不具合が多発しました。その都度、防府市とも協議しつつ修繕を行ってきましたが、全体的に設備・機器の劣化が進んでおり、施設管理の面では今後も厳しい状況が続くものと想定されます。

イ 利用状況

利用率については、前年度（71%）を上回り75%となりました。利用人数についても、前年度を31,379人上回る127,992人となりました。

利用率の内訳としては、音楽ホールが71%、リハーサル室が81%、展示ホールが68%、練習室が89%となっています。

2月の末から新型コロナウイルスの影響でイベントのキャンセルが続出しましたが、防府市公会堂の休館に伴いそれまでの利用が増加していたため、利用率が高くなりました。

山頭火ふるさと館

山頭火ふるさと館には、

- 1 山頭火を顕彰・継承する文学館としての役割
- 2 学校や公民館等と連携してあらゆる世代の人たちが学ぶ教育施設の役割
- 3 「うめてらす」等と連携して新たな人の流れをつくり、防府市を活性化する観光施設としての役割

以上3つの役割が求められています。その3つの役割を踏まえて、運営事業・研究普及事業・収益事業・管理業務を行いました。

（1）運営事業

山頭火ふるさと館の案内や催し等について、市民ボランティアとの協働を推進し、来館者や市民に親しまれる館の運営を行いました。

① 案内業務

山頭火ふるさと館には、県内外から多くのお客様が来館されますので、受付カウ

ンターには常時職員を配置し、来館者に対する施設の総合案内や主催事業への参加誘導等を行って、一人でも多くの方に山頭火の世界に触れていただくよう努めました。

② ふるさと展示交流室の運營業務

交流室については、通常は多くのお客様に気軽に利用していただけるスペースとして無料開放し、山頭火のふるさと防府の様々な情報発信ができるよう努め、施設の有効活用を図りました。

交流室を専用して使用するための申請があったときは、市の条例及び規則に基づいて、使用許可等の事務を適正に実施しました。

③ 広報活動

全国におられる山頭火ファンに向けて、山頭火や自由律俳句に親しんでいただき、山頭火ふるさと館へ足を運んでいただけるよう、各種メディアを活用して山頭火に関連する情報発信を積極的に行いました。

ア ホームページ・Facebook での情報発信 随時

イ 山頭火ふるさと館報の発行 年二回

ウ 山頭火ふるさとラヂオ（FM わっしょい） 月一回放送

エ その他各種メディアの活用

（２）研究・普及事業

① 収集・保存

山頭火ふるさと館の収蔵資料は、大切に整理・保存しています。

また、館の収蔵資料の充実のため、山頭火やその関連の資料の調査に努めました。

② 調査・研究

館収蔵の資料については、学術的な調査・研究を行い、その成果を展示や館報など様々な形で発信しました。また、次年度の特別企画展に関する資料の調査も行いました。

③ 展示活動

ア 特別展示室

山頭火や山頭火を取り巻く人々、自由律俳句の魅力等を観覧者に伝えるための企画展を開催し、所蔵する資料の一部を紹介しました。資料の劣化防止や観覧者への配慮等の観点から、同じ資料が長期間展示されることのないよう、計画的に入れ替えを行いました。

・平成31年4月13日（土）～令和元年6月23日（日）

企画展「コレクション展示 山頭火を書いた現代人」

大正から昭和初期にかけて活躍した自由律俳人として知られる山頭火は、

その生き方、俳句によって現代に生きる我々をも魅了します。この企画展では、山頭火ブームの火付け役となった永六輔や、防府市にゆかりのある方々等、現代人7名を取り上げ、それらの人々が山頭火句を書画で表現した作品を展示しました。現代まで衰えない山頭火の魅力を身近に感じていただく展示となりました。

- ・令和元年6月28日（金）～9月8日（日）

企画展「自然を詠む」

自由律俳人の種田山頭火は自然を題材にした句を多く詠んでいます。それらの句を読むと野山を歩く旅の途中や一人で暮らす庵で、自然を身近に感じ、慰められ、生きる力を得ていたことが伺えます。この企画展では、山頭火が自然をどのように詠んでいるか、その”まなざし”をとおして自然をどのように受け止めているかを考察しました。

- ・令和元年9月13日（金）～12月8日（日）

企画展「周防三羽鳥 ～山頭火と白船・碧松～」

自由律俳句の雑誌『層雲』の中で、主宰の荻原井泉水は、種田山頭火、久保白船、江良碧松という山口県から投稿する三人の若者に着目し「周防三羽鳥」と呼んでその才能を高く評価しました。この企画展では、山口県を代表するこの三人の自由律俳人とその作品を紹介し、それぞれの個性あふれる作品群をご堪能いただきました。

- ・令和元年12月13日（金）～令和2年2月27日（木）

企画展「山頭火の書」

自由律俳人として有名な種田山頭火は、自らの句を短冊や掛け軸に多く書き残しています。お世話になったお礼や友人から頼まれて書くことも多く、さまざまな筆致でそれぞれに味わい深く、緒によっても人々を魅了していたことが分かります。この企画展では、山頭火の直筆の書を紹介し、短冊や掛け軸、扇子など、残された書から山頭火の書きぶりを鑑賞しながら、句に込めた思いを読み解きました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大対策のため、会期終了日を3月8日（日）から2月27日（木）に変更しました。

- ・令和2年3月27日（金）～3月30日（月）（会期中）

令和元年・2年度企画展「響き合うことば ～山頭火 句の広がり～」

短いことばで表現する俳句を詠むなかで、山頭火はさまざまな工夫を凝らしています。今回の企画展では、ひとつの言葉で多様なイメージを喚起するような手法が使われた山頭火句を紹介し、同時に、見る方向を反転させることによってある文字が別の文字にも見えるアート「アンビグラム」も展示し

ています。短い中にも広がりのある山頭火句の新たな魅力を「アンビグラム」とともに楽しんでいただける展示です。

なお、新型コロナウイルス感染拡大対策のため、3月13日（金）の開始日を3月27日（金）に延期しました。

イ 常設展示

導入展示室と常設展示室では、山頭火の生涯や人間的な背景を紹介するパネルと資料を展示し、4月8日～12日の企画展展示替え期間に合わせて「草木塔の普及」を新たに展示しました。

ウ ふるさと展示交流室・市民ギャラリー

ふるさと展示交流室では、毎月「今月の一句」を選んで掲示し、来館者に紹介しました。館所蔵の書籍で保存状態が特に良好なものについては、ふるさと展示交流室に設置して来館者が自由に読めるようにしました。また、館蔵の図書一覧リストを設置し、当日の利用申請を受けられるよう制度を整えました。また、来館者ノートを置いて、来館者の方々に感想等を記入していただきました。

市民ギャラリーでは、市民の方々による文化・文芸活動の発表がない期間には、展示室への導入として山頭火を紹介する展示も行いました。

・令和元年5月～6月

企画①「樹木希林と山頭火」

・令和元年6月28日（金）～8月3日（土）

企画②「田主誠展」

④ 教育普及活動

「山頭火をうたい 山頭火にしたしみ 山頭火をつたえる」ことを目的に、山頭火や自由律俳句等をテーマとしたセミナー、ワークショップ等を企画し、ふるさと展示交流室を利用して開催しました。

ア 山頭火を学ぶ会 月一回、5回シリーズを前後期開催

イ 自由律句を学ぶ会 月一回、5回シリーズを前後期開催

ウ 自由律句で遊ぼう（小・中学生対象） 通年全7回

エ 自由律俳句大会 5月～11月募集、2月表彰

オ フォトコンテスト 3月～7月募集、8月表彰

カ 書道コンクール（市内小・中・高校生対象）7月～9月募集、10月表彰

キ 企画展「山頭火を書いた現代人」関連イベント「押花で絵手紙を作ろう！」

令和元年5月4日（土）

ク 企画展「周防三羽鳥 ～山頭火と白船・碧松～」関連イベント「コリントゲームで遊ぼう」 令和元年11月23日（土）

ケ 企画展「山頭火の書」関連イベント「消しゴムはんこ作り」

令和元年12月15日（日）

コ 企画展「山頭火の書」関連イベント「山頭火カルタで書き初め大会」

令和2年1月5日（日）

サ 防府市小・中学生自由律俳句づくり大会（読売新聞社との共催事業）

1月～2月募集、3月結果発表

小・中学校等の社会見学を積極的に誘致し、また市内小学校教職員の研修においても館を利用していただきました。さらに、団体利用等の観覧者から要望があったときは、職員が解説を行いました。また、依頼があったときは、市内や県内の公民館や各種行事等への出前講座も行いました。

さらに、学校連携として、博物館実習生を1名受け容れました。

⑤ 交流活動

市民ギャラリーやふるさと展示交流室等を利用して、文化協会等と連携し、市民の作品等を展示することで、市民の文化活動を支援し、市民文化の振興を図りました。

ア 十二支たち 針間文彦絵画展 2019

令和元年12月13日（金）～25日（水）

イ 自由律俳句と絵画の展示

令和2年2月10日（月）～23日（日）

また、市内の新たな文化施設として、うめてらすや周辺の商店、地域住民団体等と良好な関係を築くよう努め、地域の行事・企画等に積極的に協力しました。

ア 愛情防府フリーマーケット 令和元年10月19日（土）

スタンプラリーのポイント

ワークショップ「山頭火バッジを作ろう」開催

イ すごいぞ！防府 令和元年11月16日（土）

スタンプラリーのポイント

「ほうふ天神なごみ市」交流室貸し出し

ウ うめてらすネットワーク イルミネーション 12月～1月

⑥ 本財団内部の連携事業

本財団でこれまで実施している、音楽・美術・視聴覚ライブラリー・図書館等の事業と山頭火ふるさと館の事業との連携を図って相互の事業発展につなげていくことを目指しました。

また、他施設にも自由律俳句大会の投句箱や今月の一句を設置する等、財団全体で山頭火ふるさと館の事業を支援しました。

（3）管理業務

①施設・設備・備品の維持管理と環境整備

施設・設備・備品の点検と日常的な修繕を適切に実施し、日常かつ計画的な清掃業務を行うことにより、来館者が安全で快適に利用できる環境整備に努めました。

②保安・警備・防犯対策

山頭火ふるさと館には入館無料であり、誰もが自由に入出りできる環境にあるため、職員による定期的な見回りや監視カメラの活用により、常に的確な館内・館外の状況把握・防犯管理に努めました。交流室に設置している書籍については、防犯対策として、持出禁止であること等の表示をしました。

安全管理上問題がある行為や迷惑行為に対しては、利用中止や退館の措置を講じるなど、必要に応じて警察への通報を踏まえた毅然たる態度で対応しました。

③危機管理

自然災害、火災、事故、犯罪等の発生に適切に対処するため、危機管理マニュアルや危機管理体制の整備、消防法等の関係法令に基づく定期訓練の実施、救急救命講習会等への定期的な参加等により、全ての職員が、緊急事態の発生や危機を迅速に認識し、的確な対応が取れるよう備えました。

2 科学及び科学技術に関する知識の普及・啓発を図る科学館運営事業

第三期指定管理期間の4年目となった令和元年度は、開館20周年を迎えた前年度の事業成果を踏まえ、話題性のある体験型の特別展・企画展を開催するとともに、最近開催していなかった天文分野の写真パネル展も開催し、多くの方々にソラールの多様な事業を発信し、科学の楽しさや面白さが伝わるような事業を実施して参りました。

(1) 教育普及事業（資料14頁～16頁参照）

① 日常事業

当館の常設展示は、光と色の性質や身近な科学現象の原理などを紹介する「光の謎を解き明かせ！」の展示装置をはじめ、地域の自然や、宇宙と太陽の謎や生命の進化の歴史に触れることのできる回廊展示室の展示など、参加体験型の展示を中心に構成されています。これらの展示については、利用者がいつ来館されても安全に楽しく体験できるよう対応しました。

また、防府市による企業版ふるさと納税による展示物の一部リニューアルも行われ、科学を楽しみながら学ぶことのできる展示物となりました。

さらに、週末や祝日には、太陽望遠鏡による太陽活動の観測（ガイドツアー）、たのしい工作、サイエンスショーも実施し、科学を楽しく学ぶ機会を提供しました。

ア たのしい工作

土・日・祝日に、主に幼児から小学校低学年を対象にした簡単な工作教室を開催し、5,909人もの参加がありました。「からまりふりこ」など10種類の工作を実施し、企画展や特別展に合わせたテーマにしたり、科学的な原理、原則が学習できるようにしたりと、内容を工夫しました。

例えば、特別展「究める！マグネット展」会期中には、特別展のテーマに合わせて前期・後期2種類の磁石工作を提供し、サービスの充実とリピーターの確保に努めました。

また、工作希望の団体利用の皆様にも工作教室を実施し、昨年度より8団体多い17団体、746人が参加されました。

なお、新型コロナウイルス感染防止対策のため、2月29日から3月26日まで臨時休館となりました。その後、27日から開館しましたが、学校の春休み期間ということから、指導者がいなくても、来館者が動画を見ながら簡単に工作が体験できるコーナーを設け、サービス向上に努めました。

イ サイエンスショー

楽しみながら科学への興味を深めるため、土・日・祝日に1日3回サイエンスショーを実施するとともに、平日は学校団体などの要望にもお応えしました。

本年度は、313回実施し、12,335人の方々にご覧いただきました。

ウ ソラールの科学教室

防府の自然や星空を観察、学習したり、ものづくりを通して科学の奥深さを追及したりする科学教室を実施しました。科学を掘り下げて学べる少人数の講座で、本年度は電子工作教室「磁石でスタートする車」や気象教室「雨と台風の科学」など合計23講座を開催し、556人の受講者がありました。

なお、雨天のため天体観察教室と、新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休館したことから、合わせて4つの講座が中止となりました。

② 特別事業

子どもから大人まで幅広い人々が、わかりやすい展示方法や体験によって、科学への興味・関心を高めることができる事業を展開し、多くの方々にソラールの魅力を発信し、科学の楽しさや面白さが伝わるような事業を実施して参りました。

なお、1月25日から開幕したパネル展「星のある風景」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため会期の途中で臨時休館となり、3月8日までの会期が、2月28日までとなりました。

ア 春休み工作教室

平成30年度から、年度が明けてから実施するようになった春休み工作教室を、7日間開催しました。「自然のアート葉脈しおり」など有料の教室を、2

日毎に内容を入替え、6日間で3種類実施しました。また、「色が見える！？ベンハムのコマ」など材料費無料の教室を1日2教室、2日毎に内容を入替え、7日間（7日目は、前日と同じ内容で実施。）に6種類の工作を行い、1,441人もの来館者がありました。

イ 特別展「究める！マグネット展」

平成26年度に開催した「マグネット展」では、磁石の基本的な性質や驚きの現象などを紹介する企画展でしたが、当年度の「究める！マグネット展」では、磁石の吸着力や磁気特性、温度特性などの要素を、実際の現象を通して理解し、そのうえで磁石を活用している身近な製品や技術を紹介することで、より深く磁石について理解し、科学的、技術的な視点や考え方を養うことを目的に開催しました。

会期中は、8,790人もの来館者で賑わいました。

ウ 特別展「未来の科学の夢絵画展」

公益社団法人発明協会が募集する「未来の科学の夢絵画展」を、例年同様に開催し、1,186人の来館者がありました。

会期中、イラストレーターわたなべえつこさんによる特別講座「似顔絵教室」も実施し、大変盛況でした。

エ 「サイエンスアカデミー2019」

平成25年度から始まった「サイエンスアカデミー」も、令和元年度で7回目を迎えました。当年度も、講師に小・中学校、高等学校、大学などの先生方をはじめ、企業や博物館の皆様をお迎えし、幅広い分野の42講座を実施しました。また、随時工作も毎日実施しました。

これらの講座は、幼児や小・中学生の科学的好奇心を刺激し、科学のおもしろさを知ってもらうことのできる内容で、企業等から協賛、協力を得て開催しております。

会期中の来館者数は6,965人でした。

オ 特別展「光のイリュージョン展2」

“光”をテーマとし、最新の画像処理技術と光の投影技術を駆使した作品、音と光を融合させた作品、3Dプロジェクションマッピング、ホログラム等、光と光技術によって生み出される不思議で魅惑的な作品の展示を行いました。

本展は、光が織りなす不思議な世界を体感していただき、光と光技術への興味・関心を喚起させることを目的に開催し、会期中は、14,264人もの来館者があり、大いに賑わいました。

カ 防府市小中学校科学作品展

毎年、防府市小・中学校教育研究会理科研修部との共催事業として、市内の

小・中学生の夏休みの自由研究・工作から、校内選考で選ばれた優秀作品を毎年展示しています。本年度は、小学校の部 312 点、中学校の部 143 点の作品を展示し、会期中の来館者は 1,802 人でした。

キ 特別展「もぐもぐ探検隊 ～“くち”から“おしり”まで～」

食べ物になった気分で、「胃のボールプール」や段ボールで作られた「小腸迷路」、「大腸トンネル」などを探検しながら、子どもでも楽しみながら人間の消化器官など体の仕組みについて学べる特別展を開催しました。また、岡山の川崎医科大学現代医学教育博物館の協力により、消化に関するポスター展示や噛む力体験などの体験装置の展示も行いました。

さらに、川崎医科大学現代医学教育博物館の学芸員による特別講座「からだの臓器のしくみを学ぼう」も実施しました。

会期中は 17,014 人もの来館者があり、大いに賑わいました。

ク 「ソラールのクリスマス 2019」

来館者が科学に触れるとともにクリスマスを楽しむ場を提供する毎年恒例の特別企画です。

一昨年度から、より多くの方々に参加していただけるよう随時参加できる工作を 1 日 2 教室に増やし、「すけてびっくり！光のかくし絵」などの 2 日間で 4 種類の随時工作（材料費無料）を実施したほか、有料の工作として「発光ダイオードで光のオブジェ」など 2 日間で 3 種類の工作を行いました。また、鉄道模型運転会や発明クラブ員の作品展示、防府フィルハーモニーオーケストラのメンバーによるクリスマスミニコンサートも行いました。会期中は、747 人の来館者で賑わいました。

ケ パネル展「星のある風景」

近年、天体だけを撮影するのではなく、星空と風景を一緒に撮影した「星景写真」という言葉も出てきて、風景写真を撮影するような感覚で、星空や天体と周りの風景や建築物などを一緒に撮影することがブームとなってきています。今回のパネル展では、プロやハイアマチュアの天体写真家の方々が撮られた星景写真を約 100 点展示しました。

今回のパネル展をとおして、天文や宇宙に興味をもって頂き、いつまでも美しい星空が見られるよう環境問題にも意識を向けて頂くことを目的に開催しました。

本来なら、1月25日から3月8日までの38日間の会期でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月28日をもってやむなく閉幕となり、30日間の開催となりました。

会期中は、1,803 人の来館者がありました。

(2) 情報収集保管事業（資料16頁参照）

当館の太陽望遠鏡による太陽観測映像は、デジタルデータとして保管に努めました。

(3) 啓発調査研究事業

科学教室や工作などの教材開発に取り組むとともに、新たなサイエンスショーのメニューの開発に取り組みました。

(4) 学校連携事業及び外部連携事業（資料17頁～21頁参照）

① 学校連携事業

予めサイエンスショーや工作教室の希望のあった学校団体向けには、社会見学の時に館内でご希望の講座を実施しました。

市内外の小学校への出前講座としては、理科の出前授業やクラブ活動、PTAの学年活動、放課後子ども教室などを通して、青少年への科学の普及活動を積極的に行うとともに、市外の幼稚園からの要請にも応えました。

また、博物館実習をはじめ、インターンシップや職場体験学習による人材育成支援も行いました。当年度は、博物館実習は見学実習として大学生1人、インターンシップとして高専生1人を受け入れました。その他、市内の中学校2校から合わせて6人の職場体験学習を行い、市内小学校の6年生8人による職場見学も受け入れました。

さらに、教職員の研修として、社会体験研修では、市内の小学校から1人、市外の小学校から1人、中学校から1人の教職員を受け入れました。

② 外部連携事業

防府ユネスコ協会や県立山口博物館、山口大学理学部、公民館とも連携して、それぞれの活動に協力し、職員を派遣しました。

地元コミュニティFMとの連携では、楽しみながら科学への興味を深めることができる講座などを実施しました。

また、毎年恒例の発明科学教室や宇宙教室を実施するとともに、電池工業会から講師を派遣していただき、手作り乾電池教室を開催しました。

さらに、防府市との連携として、環境教育特別講座や防府市教育“夢”プロジェクト「菅公みらい塾」も開催しました。

(5) 科学教育普及指導員派遣事業

防府市内の公民館や児童館などへのお出前講座の依頼に対応するため、必要な知識

や技術をもった当館の元専門職員が科学教育指導員となり、講座を実施しました。本年度は9回実施し、348人の方に科学の不思議さや楽しさを伝えることができました。

(6) 防府市少年少女発明クラブ

青少年の科学技術に対する夢と創造力を育み、創造性豊かな人間形成を図ることを目的に、当館を活動の場として開設された発明クラブの活動も19年目になりました。ボランティアグループ「サイエンスFUNクラブ」の皆様の多大なお力をいただき、充実した活動を行っています。

一般社団法人山口県発明協会主催の「2019やまぐち未来の科学の夢絵画展」では、応募総数32点のうち、奨励賞に2点が入選しました。

(7) 科学施設の管理運営

① 防府市青少年科学館

市民の科学及び科学技術に関する知識の普及及び啓発を図るとともに、創造性豊かな青少年を育成することを目的として設置された当施設は、その設置目的にかなうよう管理運営に努めました。

ア 施設整備・運営

前年度に引き続き、市の企業版ふるさと納税などによる資金により、常設展示物の一部リニューアルが行われました。新しく設置された展示物は、「むげんきょう」、「にんげんまんげきょう」、「おおきなまんげきょう」、「くるくるレインボー」の4点です。

施設の維持管理については、清掃や設備管理業務などにおいて、受託者と意見交換や情報共有を行いながら、お客様の安全と安心を第一に適切な管理・運営に努めました。空調設備や展示装置などで経年劣化に伴う機器の不具合が発生しましたが、その都度修繕を行いました。しかし、様々な設備の劣化が進んでいますので、防府市と情報を共有し、長寿命化に向けた対策の検討を次年度も継続していきます。

また、本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、令和2年2月29日から3月26日まで臨時休館しました。開館にあたっては、館内の消毒や清掃回数を増やしたり、感染リスクの高い展示物の使用を中止したりして、安全な運営のための対策を適切に実施しました。

その他、平成27年度から開始した社会見学の引率教職員を対象とした無料招待券の送付を引き続き実施しました。その結果、57件224人の利用につなげ、年間の社会見学の件数は82件でした。

イ 利用状況（資料 22 頁～23 頁参照）

令和元年度の入館者数は、開館 20 周年記念事業などを実施した前年度と比べ約 22% 減少しましたが、平成 29 年度に比べると約 12% 増加し 59, 172 人となりました。

また、館外普及活動として、市内の小中学校や児童館・公民館の家庭教育学級などへの派遣講座を行い、2, 295 人の参加がありました。入館者及び館外参加者人数は総合計で 61, 467 人です。

3 学校教育及び社会教育における視聴覚教育の振興に関する事業

学校教育及び社会教育における視聴覚教育の振興と学習支援を行うことを目的に、視聴覚教育事業を実施しました。

（1）視聴覚機材や教材の計画的な充足（資料 24 頁参照）

令和元年 8 月 29 日に運営委員会を開催し、平成 30 年度の事業報告及び決算について、令和元年度の事業計画推進状況及び予算について、更に令和 2 年度の事業計画についてご審議いただきました。委員の皆様のご意見を参考に、外光が差し込む場所や大きい会場でも利用が可能なプロジェクターなどを購入しました。また、科学館の多目的ホールなどでの上映により、科学に興味を持つきっかけとなるような映像ソフトを 8 本購入しました。

その他、自主制作教材としては、防府市立防府図書館の前身である防府市立三哲文庫の設立に力を尽くした上山満之進について紹介する DVD 「防府の恩人 上山満之進」を制作しました。

（2）視聴覚機材や教材の貸出管理（資料 24 頁～25 頁参照）

視聴覚機材の貸出は、321 件、1, 359 日でした。また、視聴覚教材の貸出は、50 件、265 日でした。機材・教材の貸出件数は、年々減少傾向にありましたが、本年度は若干増加しております。今後も、市民の皆様の学習活動を支援できるような視聴覚機材や機器を揃えるとともに、引き続き市内小中学校や貸出対象となる団体へ向けた PR を行ってまいります。

（3）防府市青少年科学館の多目的ホールでのビデオ上映（資料 26 頁参照）

科学館の多目的ホールでは、科学事業の企画展・特別展などに沿う教材や、科学により一層興味を持っていただけるような教材を中心に上映しました。

また、クリスマスや春休み期間には、小さなお子様向けのアニメーションを上映し

ました。

(4) 市内小学校あて巡回ビデオの配送 (資料26頁参照)

防府市小学校教育研究会視聴覚教育研修部の先生方が選定された教材(DVD)が令和元年6月4日から令和2年2月27日まで市内小学校を巡回する「巡回ビデオ」の実施に伴い、小学校17校に教材30点を配送し、小学校の視聴覚教育を支援しました。

(5) 講習会の開催 (資料27頁参照)

① ビデオ撮影編集講習会

本年度も、ビデオ撮影や編集テクニックの基本を学べる講習会を行いました。9月26日、27日の2回シリーズで開催し、3人の受講者が2日間の講習でそれぞれの作品を仕上げました。

② タブレット活用講習会

昨年度に引き続き「タブレット活用講習会」を3月24日に実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止としました。

(6) ホームページの充実

自主制作の「地域教材ビデオ」や教材目録などについて、防府市視聴覚ライブラリーのホームページから自由に閲覧できるよう、引き続き管理しました。

4 教育及び文化の情報拠点として生涯学習の支援を図る図書館運営事業

(資料28～30頁参照)

教育及び文化の情報拠点として、図書館資料・情報提供サービスの向上・強化を図るとともに、その資料・情報を活用できる生涯学習活動の場として、集会・文化活動の推進に努めました。

また、「防府市図書館サービス振興基本計画」や「第2次防府市子ども読書活動推進計画」に基づき、図書館利用促進や読書活動推進のための施策に取り組みました。

※具体的な数値統計については、別紙利用統計他を参照。

(1) 誰もが等しく学べる、豊かな資料と機能を持つ図書館

① 市民の日常生活、学習活動に寄与する、質・量ともに充実した資料を持つ図書館 ア 資料収集業務

図書館資料の適正な選書・収集を「防府市立防府図書館資料収集要綱」に基

づいて行い、質・量両面の充実に努めました。

地域資料については、地方紙の記事他から積極的に収集し、行政関係資料及び歴史・地誌・民俗・教育・芸術・文学等、多岐にわたる分野の資料収集を行い、防府図書館独自の特徴的なコレクションの形成に努めました。

イ 資料分類・目録整備業務

資料の受入れに際しては、受贈資料も含めて体系的に管理するため、迅速・正確な資料組織化・装備を行いました。資料の分類は、10月発注分から日本十進分類法新訂10版に切り替え、それに基づき適切な書架分類と配列を行いました。

また、資料受入れと同時に、日本目録規則に基づく事務用コンピュータ目録を作成し、利用者に分かりやすいOPAC（オンライン閲覧目録）検索画面等を提供しました。

ウ 書架管理・蔵書点検業務

月例整理日（原則として第1火曜日）だけでなく、常に書架の整理整頓に努め、返却資料も迅速に処理しました。延滞資料については電話・葉書・Eメール等により定期的に返却を督促し、延滞資料に予約が入った場合は随時督促を行いました。

また、年2回行う定例の蔵書点検のほか、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館中（3月6日（金）～3月26日（木））に、書庫の蔵書点検を行いました。

エ 資料提供業務

窓口カウンターでの、資料の貸出及び返却業務、利用登録業務、予約・リクエスト受付業務等を、常に正確・迅速に行うよう努めました。

また、個人情報保護の観点から、自動貸出機利用奨励のための案内を行いました。

② 老若男女を問わず、様々な立場の人が、誰でも気軽に楽しく利用できる図書館

ア コンピュータシステム管理業務

コンピュータシステムの円滑な運用により、サービスの強化に努めました。Web上での資料検索・予約・貸出期間延長、利用者が自らの読書履歴を管理する読書手帳、利用者がWeb上で読みたい本や既に読んだ本を管理するMy本棚、読書目標や読書量を個人管理する読書マラソン等の機能の活用促進に努めました。

イ 情報発信（広報）業務

ホームページを適切に管理運営するため、随時情報を更新し、内容の整備と情報提供サービスの充実に努めました。

また、「ほうふ図書館だより」「ほうふとしょかんこどもしんぶん」「新刊紹介」（以上、月刊）、「行政関係図書紹介」（季刊）等の広報紙を発行し、行事関係チラシ等をその都度作成するとともに、市広報「ほうふ」（月2回刊）、防府市文化振興財団機関紙「イベントアイ」（隔月刊）、防府市メールサービス（随時）、及び防府市文化振興財団広報「メールマガジン」（毎月）、に図書館関係記事を掲載しました。

さらに、地域コミュニティーFMラジオ「FMわっしょい」の『防府市からのお知らせ 情報モリモリ』に、図書館職員が毎月第2・4木曜日に定期出演し、同局において図書館主催のビブリオバトル告知番組を提供出演（5月9日（木）、10月10日（木）、2月8日（土））するとともに、山口ケーブルビジョンのデイリーニュース番組「まちかどNEWS」（5月16日（木））に出演しました。

ウ 図書館年報作成業務

「平成30年度図書館年報」及び「数字で見る防府図書館（平成30年度の統計より）」を5月31日（金）付で発行し、ホームページにも掲載しました。

エ サービス環境整備

図書館施設・設備・備品の点検と修繕を適切に実施し、電話機（6月）、展示室照明器具（8月）、展示ケース（9月）の交換を行いました。

また、親子読書コーナーのカーペットの張り替え工事（11月）を行うとともに、恒常的で計画的な清掃業務を行うことにより、安全で快適に利用できる環境整備に努めました。

オ 安全対策・危機管理業務

防犯体制強化の一環として、8月に防犯カメラ（展示室内1台、職員用エレベーター内1台）と夜間警備用センサー（一般図書コーナー3台、児童書コーナー3台、展示室1台）を設置し、9月には出入り口欄間部分（エントランス及び通用口）の改修工事を行いました。

また、施設管理会社・警備会社・警察等との連携を密にしながら、常に的確な状況把握と防犯管理に努め、施設管理会社とは毎月1回定期協議を行いました。安全管理上問題がある行為や迷惑行為に対しても、毅然たる態度で対応しました。AEDや防犯カメラの点検を毎日開館前に行い、施設の危機管理マニュアルに基づき、常に事故や犯罪等の発生に迅速・的確な対応が取れるよう備えました。10月17日（木）、3月26日（木）にはルルサス防府全体の避難訓練に参加し、11月14日（木）、3月5日（木）には図書館単独の避難訓練を行いました。

さらに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月6日（金）～3月2

6日（木）まで臨時休館するとともに、閉鎖空間となる研修室・準備室・お話のへやは、3月31日（火）までその使用を中止しました。

カ 利用マナー啓発業務

「マナーアップキャンペーン」（会期7月1日（月）～9月1日（日））を実施し、小学生までを対象とした「グッドマナーチャレンジ」では、グッドマナーチャレンジカードを718枚配布し、目標達成者は137人でした。

③ 図書館から遠い所に住んでいる人にも、サービスできる図書館

ア 移動図書館車「わっしょい文庫」運行業務

市内全域サービスの充実を図るため、移動図書館車に常時約3500冊の図書を積載し、6コース37ステーションを2週間に1回の周期で巡回しました。

また、4月7日（日）に佐波神社で開催された「二輪のサクラ祭」、6月1日（土）・2日（日）に防府駅てんじんぐち多目的広場で開催された「防府市緑花祭」、7月21日（日）にイオンタウン防府で開催された「みんな集まれ！はたらく車展」、10月26日（土）にイオン防府店で開催された「イオン防府店開店記念祭」、11月3日（日）にJAふれあい西浦支所で開催された「西浦まつり」、11月10日（日）に大道小学校で開催された「大道まつり」、11月16日（土）に毛利氏邸駐車場で開催された「すごいぞ！防府 秋の大イベント」において、移動図書館車の臨時出張サービスを行いました。なお、「二輪のサクラ祭」会場では、地元在住の作家・那須正幹氏の著書を展示しました。

④ 調査・研究・読書相談などに、的確に対応できる図書館

ア レファレンス（調査研究相談・読書相談）業務

資料相談カウンターにおいて司書有資格者が、利用者への調査研究活動支援、資料利用案内、読書案内等のレファレンスサービスを行いました。児童カウンターにおいても、資料利用案内・読書案内等の業務を行って、子どもの学習活動・読書活動を支援しました。

また、参加登録している、国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」閲覧業務の利用促進や「レファレンス協同データベース」の活用を図るとともに、他の図書館や市内外の関係機関等に照会したり、利用者をこれらの機関へ案内・紹介したりする、レフェラルサービスを行いました。

さらに、レファレンス事例集や新着図書案内・テーマ別ブックリスト・パスファインダー（テーマ別資料利用案内）等の充実に努めるとともに、レファレンス研修への参加や、利用者とのコミュニケーションを図るフロアワークの強化に努めました。

イ 図書館資料の複写サービス業務

利用者の求めに応じ、著作権法や防府市手数料条例に基づいた図書館資料の複写サービスを適正に実施しました。

(2) 地域の人々と手を携えて、豊かな交流の場を創る図書館

- ① 様々な図書館事業を利用者と協働して行い、学習交流の場、コミュニティセンターとしての機能を持つ図書館

ア ボランティア団体・生涯学習グループ等との協働推進業務

「第9回防府市子ども読書フェスティバル」を、実行委員会、ボランティア団体等と協働で、5月26日(日)に開催し、「子ども読書のまち・防府」第9号を7月10日(水)付で実行委員会から発行しました。

また、「第29回防府図書館まつり」を、実行委員会、ボランティア団体等と協働で、10月19日(土)に開催し、「図書館のまち・防府」第8号を11月30日(土)付で実行委員会から発行しました。

さらに、山口県出身の二人の作家、児童文学作家の中山聖子氏と絵本作家の岡本よしろう氏による、『雷のあとに』の刊行記念トークイベントを、「防府図書館利用者・サークル連絡会」と協働で、3月29日(日)に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。

- ② 学習ボランティアや、障害のある利用者のためのボランティアが、いきいきと楽しく活動できる図書館

ア ボランティア活動推進業務

4月25日(木)、図書館ボランティア団体「まーぶる」(会員10名)が発足しました。

また、「防府図書館ボランティア連絡会議」を1月23日(木)に開催し、図書館サービスの向上を図るため、現状と課題についての意見交換を行いました。

さらに、図書館ボランティアの新規育成を図るための講座、「図書館ボランティア養成講座」を、2月6日(木)、13日(木)、20日(木)、27日(木)の4回シリーズで開催しました。

(3) 生涯学習活動の拠点として、集会文化活動に力を入れ、地域の力を高める図書館

- ① 様々な図書館行事を積極的に行い、地域の文化発展に貢献する図書館

ア イベント・懇談会業務

「第9回防府市子ども読書フェスティバル」(5月26日(日)開催)において、絵本作家岡本よしろう氏によるトーク&ワークショップとサイン会を開

催しました。

また、小学生から大人まで参加できる本の紹介コミュニケーションゲーム「ビブリオバトル（知的書評合戦）」の令和元年度第1回目を、「第9回防府市子ども読書フェスティバル」（5月26日（日）開催）の中で開催しました。第2回目は11月9日（土）に、図書館内ブラウジングコーナーで開催しましたが、3月20日（金）に予定していた第3回目は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

11月29日（金）には、図書館サービスの向上を図るために利用者の意見や提言を聞く「防府図書館利用者懇談会」を開催し、建設的な意見を多数いただきました。

12月21日（土）には、職員がサンタクロースやトナカイに扮装して登場する「クリスマスおはなし会」を開催し、好評を得ました。

イ 資料展示・展覧会業務

展示コーナー・中央カウンター前・児童カウンター前での月例資料展示、及び新刊コーナー横・ヤング図書コーナー前でのミニ資料展示を、時宜に即したテーマを選定し定期的に行いました。

また、ブラウジングコーナーにおいては、図書館利用サークル「布絵本「結う」」の皆さんによる作品「やさいばたけ」の展示（6月5日（水）～7月1日（月））、「第9回防府市子ども読書フェスティバルを開催しました！」と題して、岡本よしろう氏作成のかおはめパネルや各イベントの写真の展示（6月5日（水）～7月1日（月））、「えじたま」の皆さんによる「つたえたい 私たちの想い」の展示（3月27日（金）～4月6日（月））を行いました。

② 生涯学習グループ活動を奨励し、その育成を図る図書館

ア 生涯学習グループ活動奨励・施設利用等許可業務

生涯学習グループの活動拠点として図書館の活用を推進するため、研修室他、集会スペースの利用許可等の業務を適正に行い、機会・場・設備・資料等を各団体に提供しました。

また、研修室については、利用予定の無い日に学習室として開放しました。

（4）地域の歴史や文化を大切にするとともに、国際理解を深めていく図書館

① 地域（郷土）資料を、積極的に収集・整理・保存・提供する図書館

ア 地域（郷土）資料収集業務

地域資料、特に防府市関係資料については、市関係者関連資料・市の行政関連資料及び歴史・地誌・民俗資料等の収集を行い、防府図書館独自の特徴的な

コレクションの形成に努めました。

② 地域（郷土）の歴史や文化に係る事業を積極的に行う図書館

ア 上山満之進と三哲文庫顕彰業務

展示室内の常設展示「上山満之進と三哲文庫」について、随時、展示替えを行いました。

また、上山満之進生誕150年事業の一環として、絵画「東台湾臨海道路」展示（9月27日（金）～10月14日（月））を行いました。期間中の展示室入室者数は413人でした。

さらに、ブラウジングコーナー壁面においては、防府市教育委員会による「上山満之進生誕150年」と題したパネル展示（9月4日（水）～11月11日（月））を行いました。

イ 防府史料刊行業務

「防府史料」第69集『防府地形の変遷』（御菌生翁甫著）を、3月13日付けで発行しました。

③ 姉妹都市などの図書館との交流事業を推進し、国際理解を深めるための資料を積極的に収集・整理・保存・提供する図書館

ア 春川市立図書館との資料交換業務

大韓民国春川市立図書館との資料交換協定に基づき100冊程度の資料を相互に寄贈し、受贈した資料を広く市民の利用に供しました。

（5）様々な教育文化施設とのネットワークを進め、サービスする図書館

① 学校や公民館との連携を深め、支援事業・協力事業を推進する図書館

ア 学校図書館支援業務

防府市教育委員会や市立小中学校との連携を密にして、学校図書館とのオンライン・ネットワーク・システムを活用した学校支援図書貸出業務や、貸出文庫業務を行うとともに、学校司書の研修の機会や場の提供に努めました。

また、小学校で開催される選書会（6月5校、7月2校、9月2校、10月2校）のためのリスト作成や図書の貸出など、学校司書との連携に努めました。

イ 地域文庫・団体貸出業務

市内15ヶ所の公民館に配本所を設置し、200冊の図書を3か月に1回交換する地域文庫業務を行いました。

また、毎月、公民館・出張所会議に出席し、地域文庫に係る諸連絡・利用案内等を行いました。

さらに、市内の施設・団体等の読書活動を支援する団体貸出業務として、貸

出文庫業務を行いました。

② 他の図書館や博物館・美術館との相互協力を推進する図書館

ア 他の図書館や文書館・博物館・美術館との連携業務

他の図書館との資料相互貸借・レファレンス協力・研修活動等を積極的に行うとともに、博物館や文書館等との連携にも努めました。

また、山口県及び島根県の7市町17館が参加する「山口ゆめ回廊 図書館めぐりスタンプラリー」(会期:10月12日(土)～1月19日(日))を共同実施し、当館には233人(7市町全体2012人)のスタンプ押印、39人(7市町全体262人)の記念品応募がありました。

イ 防府市文化振興財団内連携事業

毎月1回、財団内連携推進会議を開催し、各館の事業等に関する情報交換をするとともに、連携事業実施についての協議を行いました。

・文化事業との連携

アスピラート「第19回防府音楽祭」(会期1月10日(金)～13日(月))との連携企画として、関連ミニ展示「防府音楽祭」(1月5日(日)～13日(月))を行いました。

・科学事業との連携

ソラール自然観察教室「サクラの観察」(4月7日(日)開催)に、図書館職員が参加しました。

また、「究める!マグネット展」(会期4月27日(土)～6月9日(日))との連携企画として、関連ミニ資料展示「磁石のふしぎ」(5月9日(木)～5月19日(日))を、「もぐもぐ探検隊!～“くち”から“おしり”まで～」(会期10月19日(土)～12月1日(日))との連携企画として、関連ミニ資料展示「もぐもぐ探検隊!～“くち”から“おしり”まで～」(10月17日(木)～11月11日(月))、「パネル展 星のある風景」(会期1月25日(土)～2月28日(金))との連携企画として、関連ミニ資料展示「星を観察してみよう!」(2月5日(水)～17日(月))を行いました。

さらに、「紅葉どんぐり便」の受付窓口を、図書館と移動図書館車に11月1日(金)から23日(土)まで設置し、チラシを作成・配付、特別講座「紅葉教室」(11月17日(日))に、図書館職員が参加しました。全部で2000枚の紅葉、50キロのどんぐりが集まり、12月3日(火)、ソラールから沖縄の小学校に向けてメッセージとともに発送され、受け取った小学生からはお礼の手紙が届きました。

・山頭火ふるさと館との連携

第2回山頭火ふるさと館自由律俳句大会(応募期間5月1日(水)～11月

30日（土）のための投句箱を、図書館に設置しました。

また、山頭火の「今月の一句」と解説の展示を、月替わりで行いました。

（6）子どもたちの読書活動を進めていく図書館

① 子ども読書活動推進を図るための研究と事業を、積極的に行う図書館

ア 子ども読書活動推進業務

・子ども図書館員

夏休みの7月29日（月）と8月5日（月）に、小学校4～6年生を対象とした「子ども図書館員」を開催しました。それぞれ9人が参加しましたが、貸出や返却などのカウンター業務のほか、今年度は新たに絵本の読み聞かせ体験を加え、大好評を得ました。

・防府市図書館を使った調べる学習コンクール

市内の小中学生を対象として「第7回防府市図書館を使った調べる学習コンクール」（募集期間8月1日（木）～9月30日（月））を、防府市教育委員会と共催しました。応募点数は、小学生52点、中学生24点でした。市の審査会で入賞した作品のうち、金賞・銀賞の2点（いずれも小学生の部）は全国大会に出品され、2点ともに奨励賞を受賞しました。

また、7月27日（土）、29日（月）、8月3日（土）、10日（土）、12日（月）、17日（土）、19日（月）、24日（土）の8日間、「調べる学習にチャレンジ！」と題して、コンクール出品予定者のうち希望者17人を対象に、テーマの決め方、調べ方、まとめ方について個別に助言しました。

・職場体験・図書館見学等の奨励

職場体験等のインターンシップ、図書館見学等について積極的に受入れをし、子どもたちの図書館への理解促進と利用拡大に努めました。

・出前講座・出張イベント等の開催

毎月1回、第3日曜日の14時30分～15時、イオン防府店3階キッズレジ横あそび場で、図書館職員による「ほうふとしょかん出前おはなし会」を開催しました。

また、11月22日（金）には、「子ども家庭支援センター“海北”」で絵本の読み聞かせを実施しました。

② 子ども読書活動推進のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館

ア ボランティアとの連携・協働業務

毎月2回開催される「おはなしでんしゃ」の時間内に、毎回、図書館職員による絵本のブックトークを行いました。

また、4月25日（木）、2月26日（水）に開催された「防府図書館利用者・サークル連絡会」の研修会、6月13日（木）に開催された「学校図書ボランティアネット・防府」の研修会において、それぞれ図書館職員によるブックトークを行いました。

（7）障害者や高齢者に優しい図書館

① 障害者や高齢者が、気軽に楽しく利用できる図書館

ア 障害者・高齢者への資料・情報提供サービス業務

行政やボランティア団体等と連携・協力し、点字・音声資料・大活字本等の整備に努めるとともに、郵送貸出・視覚障害者用音声付インターネット設備等のサービスを行いました。

② 視覚障害者や高齢者のための対面朗読、音訳図書製作、郵送貸出などのサービスを積極的に行う図書館

ア 対面朗読、音訳図書製作、郵送貸出等の業務

ボランティアと連携し、対面朗読サービス・音訳図書製作等の推進に努めるとともに、障害者への郵送貸出サービスについて、周知と利用促進に努めました。

また、11月14日（木）には、牟礼公民館のシルバー教室に出張してブックトークを行いました。

③ 障害のある利用者のためのボランティア活動を奨励し、その育成を図る図書館

ア 障害のある利用者のためのボランティア活動支援業務

障害のある利用者のためのボランティア活動を支援し、ボランティアによる施設・設備・資料等の活用促進に努めました。

5 収益事業

チケットの受託販売や、科学館、山頭火ふるさと館のショップ運営等により、公益目的事業の財源となる収入の確保を図りました（有料駐車場は営業休止）。これらの運営に当たっては、施設利用者への更なるサービス向上につながるよう努めました。

（1）文化施設の管理運営

ホールでの式典、研修会や講演会、その他の施設での展示即売会や会議、研修会など、各施設の公益目的以外の利用についても積極的に貸与し、施設の有効利用を図るとともに、地域振興の拠点となるよう努めました。利用者アンケートや市民からの提

言などに基づいて、可能な限り各種改善を行い、利用者の立場に立ったサービスが提供できるよう取り組みました。

また、他施設で開催されるイベントのチケットを含めたチケットの受託販売も積極的に行い、お客様の利便性を高めるとともに、収入の確保にも努めました。

(2) 有料駐車場の管理運営

防府市公会堂の大規模改修工事に合わせて、営業を休止しました。今後の有料駐車場の在り方については防府市と協議をしながら進めていきます。

(3) 青少年科学館ミュージアムショップの運営

科学を身近に感じる商品を中心に販売し、科学館の魅力向上や利用者の利便性を図るとともに財源の確保につなげました。

また、「幸せます」グッズも引き続き販売し、防府市のPRに努めました。

(4) 山頭火ふるさと館ミュージアムショップ

受付横のミュージアムショップで、山頭火に関する書籍や物品など、山頭火ふるさと館来館の記念になるような物品を販売しました。また、今年度末で自動販売機が撤去となるため、空いたスペースを利用してショップの拡充ができるよう、新商品等を検討しました。

Ⅲ 理事会、評議員会

1 理事会

(1) 第1回理事会

- | | |
|-------|---|
| 開催年月日 | 令和元年5月9日(木) |
| 開催場所 | 防府市文化福祉会館3階 第4号室 |
| 決議事項 | ①平成30年度事業報告及び決算について
②令和元年度第1回評議員会(定時評議員会)の招集について |

(2) 第2回理事会

- | | |
|-------|--|
| 開催年月日 | 令和元年5月24日(金) |
| 開催場所 | 防府市文化福祉会館2階 第10号室 |
| 決議事項 | ③会長、副会長及び常務理事の選定について
(会長 杉山、副会長 岡本、常務理事 賀谷)
④評議員選定委員会委員の選任について(未決定)
⑤規程等の改正について(職員就業規則、旅費規程、地域交流セ |

ンター及び青少年科学館の利用料金等の規程の改正に伴うもの)

(3) 第3回理事会

- 決議があったとみなされた日 令和元年6月4日(火)
- 開催方法 決議の省略の方法(定款第37条第1項に基づく書面決議)
- 決議事項 ⑥令和元年度補正予算(第1号)について(平成30年度公益目的事業会計(公2科学館)の余剰金の一部を、令和元年度行う科学事業で解消するため)
- ⑦評議員選定委員会委員の選任について
(評議員 桑原、橋本 外部委員 松村、山内、山脇)
- ⑧規程の改正について(会計処理規程改正に伴うもの)
- ⑨令和元年度第2回評議員会の招集について(みなし決議)

(4) 第4回理事会

- 開催年月日 令和元年10月25日(金)
- 開催方法 防府市文化福祉会館3階 第4号室
- 決議事項 ⑩契約職員の無期雇用転換制度への移行について(平成25年4月の労働契約法第18条の改正に基づくもの。制定 無期雇用転換規程、無期転換職員就業規則)
- ⑪規程等の改廃について(新設)
(廃止 非常勤特別職員就業規則)
(改正 特定個人情報取扱規程、職員就業規則、契約職員等就業規則、分限懲戒審査委員会要綱、職員の勤務評定に関する規程、職員給与規定)

(5) 第5回理事会

- 開催年月日 令和2年2月19日(水)
- 開催場所 防府市文化福祉会館3階 第4号室
- 決議事項 ⑫令和元年度補正予算(第2号)について(文化事業等寄附金の受入関連)
- ⑬令和2年度事業計画書及び収支予算書等について(資金調達及び設備投資の見込みについて該当がない旨を含む)
- ⑭規程等の制定及び改正について
(制定 職場におけるハラスメントの防止に関する規程)
(改正 職員就業規則、契約職員等就業規則)
- ⑮令和元年度第3回評議員会の招集について(みなし決議)

(6) 第6回理事会

- 決議があったとみなされた日 令和2年3月6日(金)
- 開催方法 決議の省略の方法(定款第37条第1項に基づく書面決議)
- 決議事項 ⑩規程の改正について(人事院勧告に伴う給与改定)

(7) 第7回理事会

- 決議があったとみなされた日 令和2年3月27日(金)
- 開催方法 決議の省略の方法(定款第37条第1項に基づく書面決議)
- 決議事項 ⑪規程の改正について(公会堂、地域交流センター及び青少年科学館の利用料金等の規程の一部改正に伴うもの)

2 評議員会

(1) 第1回評議員会(定時評議員会)

- 開催年月日 令和元年5月24日(金)
- 開催場所 防府市文化福祉会館2階 第10号室
- 決議事項 ①平成30年度事業報告及び決算について
- ②理事の選任について
- (重任 池田、岡田、岡本、門田、賀谷、喜多村、嶋本、杉山、中嶋、広石、脇)
- (新任 江山、賀屋、鈴木、羽嶋)

(2) 第2回評議員会

- 決議があったとみなされた日 令和元年6月5日(水)
- 開催方法 決議の省略の方法(定款第22条第1項に基づく書面決議)
- 決議事項 ③令和元年度補正予算(第1号)について(平成30年度公益目的事業会計(公2科学館)の余剰金の一部を、令和元年度行う科学事業で解消するため)
- ④防府市文化振興財団役員等の報酬等支給規程の改正について
- (代表理事・会長の交代によるもの)

(3) 第3回評議員会

- 決議があったとみなされた日 令和2年3月4日(水)
- 開催方法 決議の省略の方法(定款第22条第1項に基づく書面決議)
- 決議事項 ⑤令和元年度補正予算(第2号)について(文化事業等寄附金の受入関連)
- ⑥令和2年度事業計画書及び収支予算書等について(資金調達及び設備投資の見込みについて該当がない旨を含む)

事業報告の附属明細書

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和2年5月

公益財団法人 防府市文化振興財団